

# メッシュ別将来人口推計のさらなる充実と活用の展開

---

平成29年7月

国土交通省国土政策局

# メッシュ別将来人口推計の概要

## 目的

- 各地域の将来人口を地理空間上できめ細やかに予測・把握するため、全国約38万km<sup>2</sup>をメッシュ単位に分割して、将来人口を推計。
- 「国土のグランドデザイン2050」(2014年夏)に1kmメッシュの将来人口推計を公表。  
「第二次国土形成計画」(2015年8月閣議決定)の検討にも活用。

## 推計のメリット

- きめ細やかな地域人口の将来予測が可能
- 一律の基準(約1km四方、約500m四方等)で全国比較が可能
- 世界測地系で施設の立地情報等と重ね合わせることができ、地図上での分析が可能。

## 本調査の内容

- 1kmよりもさらに細かい500mメッシュ単位を基本としたメッシュ別将来人口を推計。
- 大都市圏の将来の高齢化の状況について分析。
- 新幹線新駅等を対象に、インフラ整備による人口増加の効果を分析。

## 500mメッシュを基本とした推計の方法(イメージ)

(実績)

### 国勢調査 (500mメッシュ)

- ・男女別
- ・5歳別
- ・5年毎更新
- ・「常住している者」の人口

(将来)

### メッシュ別将来人口推計 (500mメッシュ)

- ・男女別
- ・5歳別
- ・5年毎更新

(将来)

### 社人研地域別将来推計 (市区町村別)

- ・自然増減(出生・死亡)、社会増減(人口移動)の仮定
- ・5年毎更新

# 500mメッシュ別将来人口推計の有用性

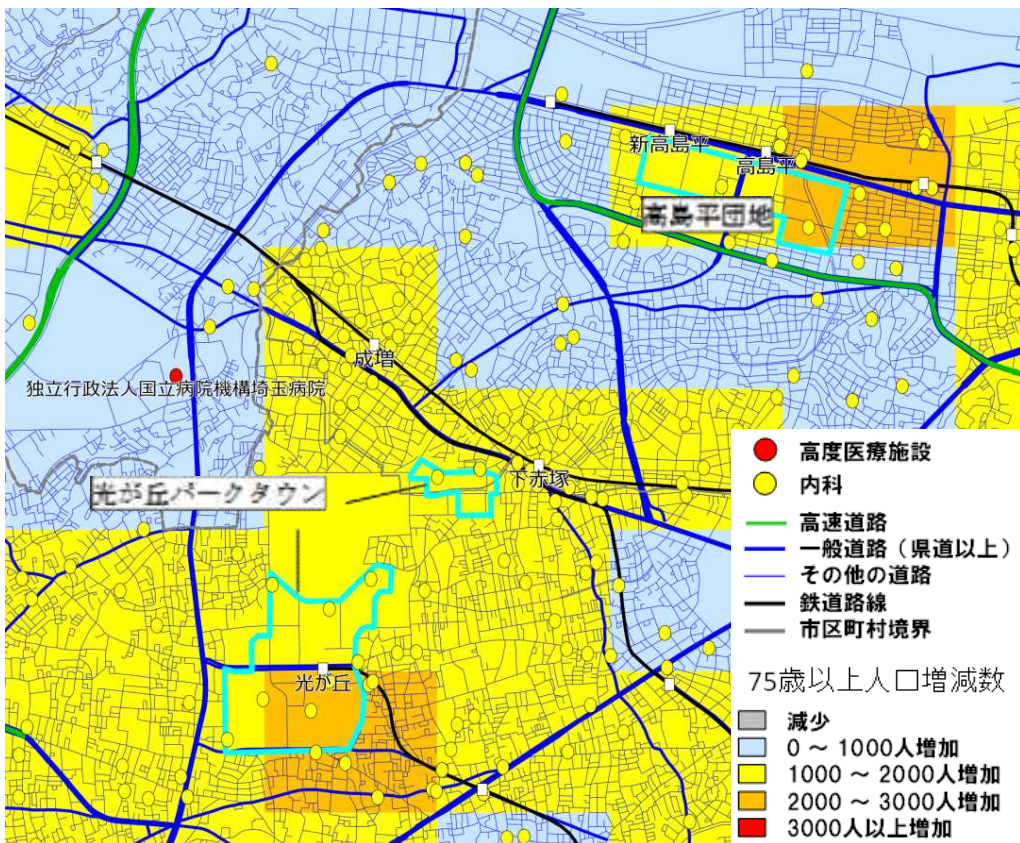
○500mメッシュ単位に解像度を上げることで将来的な人口分布等が地図上で視覚的により詳細に把握可能になり、地域づくりや地方創生の取組を戦略的に推進するための基礎資料に。

○例えば、練馬区・板橋区周辺について、2010年から2025年にかけての75歳以上人口の増減数の推計結果を見ると、1kmメッシュ別推計では光が丘パークタウンや高島平団地周辺に75歳以上人口増減数が1,000人～3,000人増/km<sup>2</sup>以上(黄色、橙色)の地域が広がっていることが分かる。

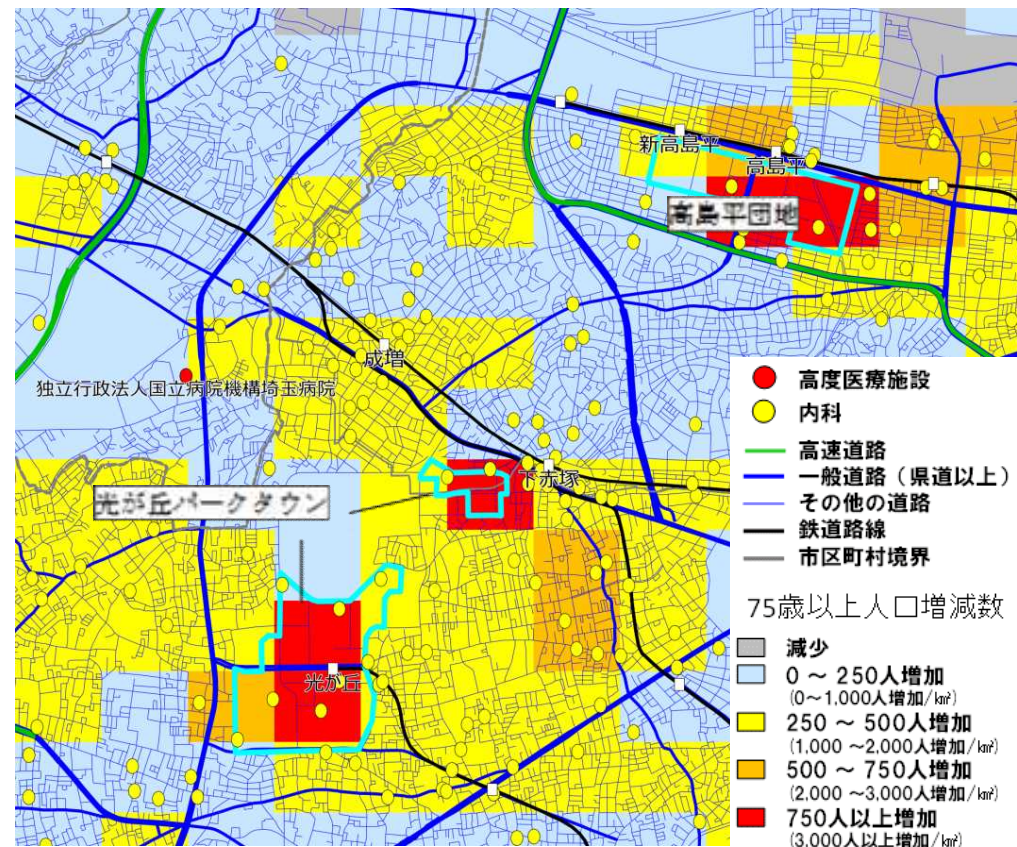
一方、より詳細な500mメッシュ別推計を見ると、団地周辺の75歳以上人口増減数は3,000人増/km<sup>2</sup>以上(赤色)であり、周辺の戸建て住宅地より高くなっていることが分かる。

○練馬区・板橋区周辺の75歳以上人口増減数(2010→2025年)

1kmメッシュ



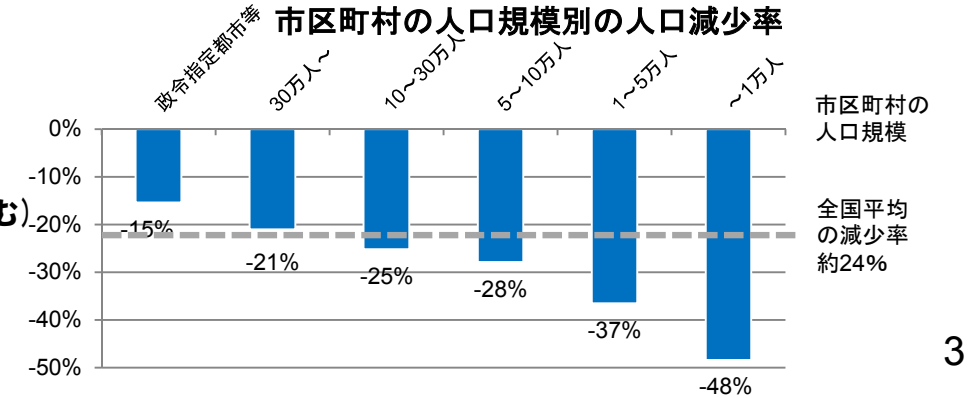
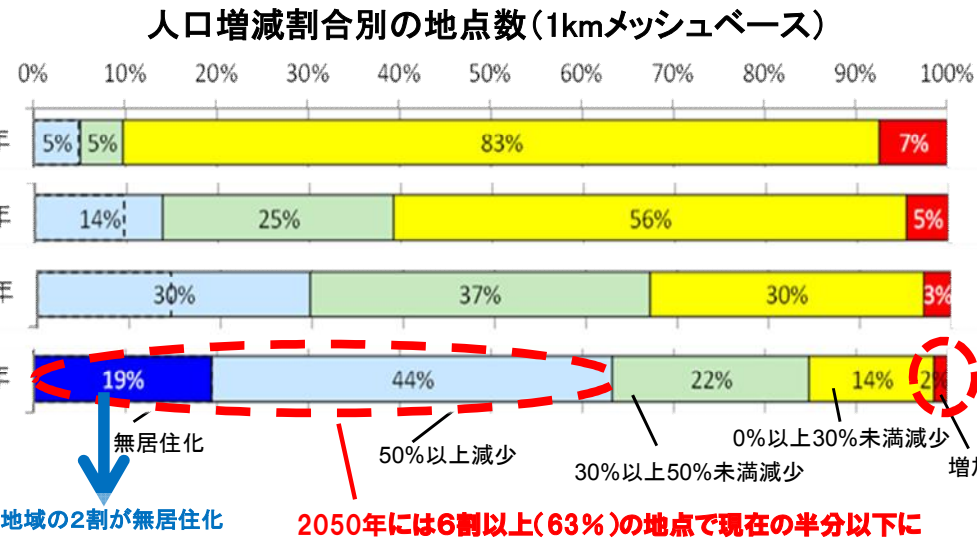
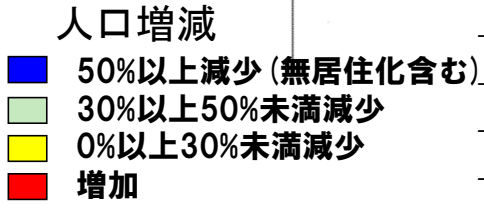
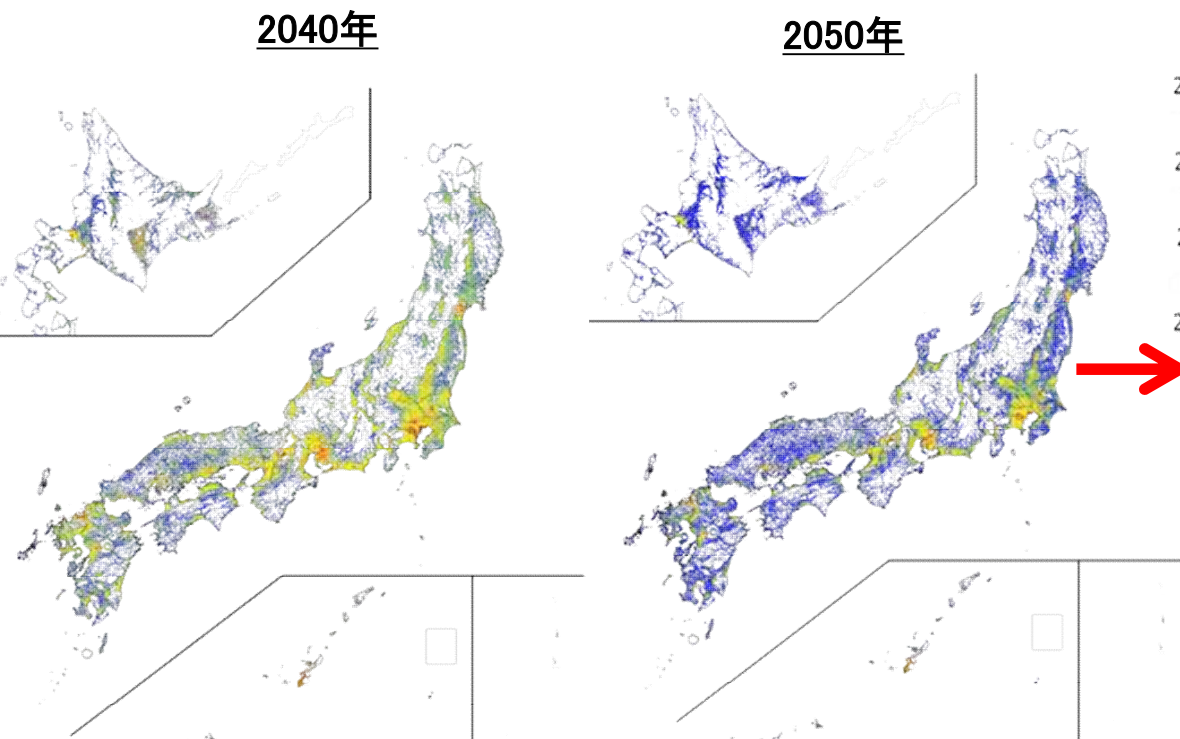
500mメッシュ



# メッシュ別将来人口推計結果①(総人口・2010年を基準とした増減率) 国土交通省

- 2040年になると、人口減少が30%未満のメッシュ(赤・黄色)は大都市や地方の中心的な都市の周辺、沿海部などに限られ、全国的に30%以上人口が減少するメッシュが広がる。
- 2050年になると、人口減少が30%未満のメッシュはほぼ三大都市圏周辺に限られ、人口が半分以下になる地点が現在の居住地の6割以上に(※現在の居住地は国土の約5割)。
- 人口規模が小さい市区町村ほど、人口減少率が高くなる傾向。特に、現在人口1万人未満の市区町村では人口がおよそ半分に減少。

## ○将来の人口増減状況(2010年基準)



※ここでは、地図の縮尺の関係上、1kmメッシュ内に属する500mメッシュ別の推計値を合計し、1kmメッシュ別に色づけしている。

# メッシュ別将来人口推計結果②(高齢人口増減数(全国))

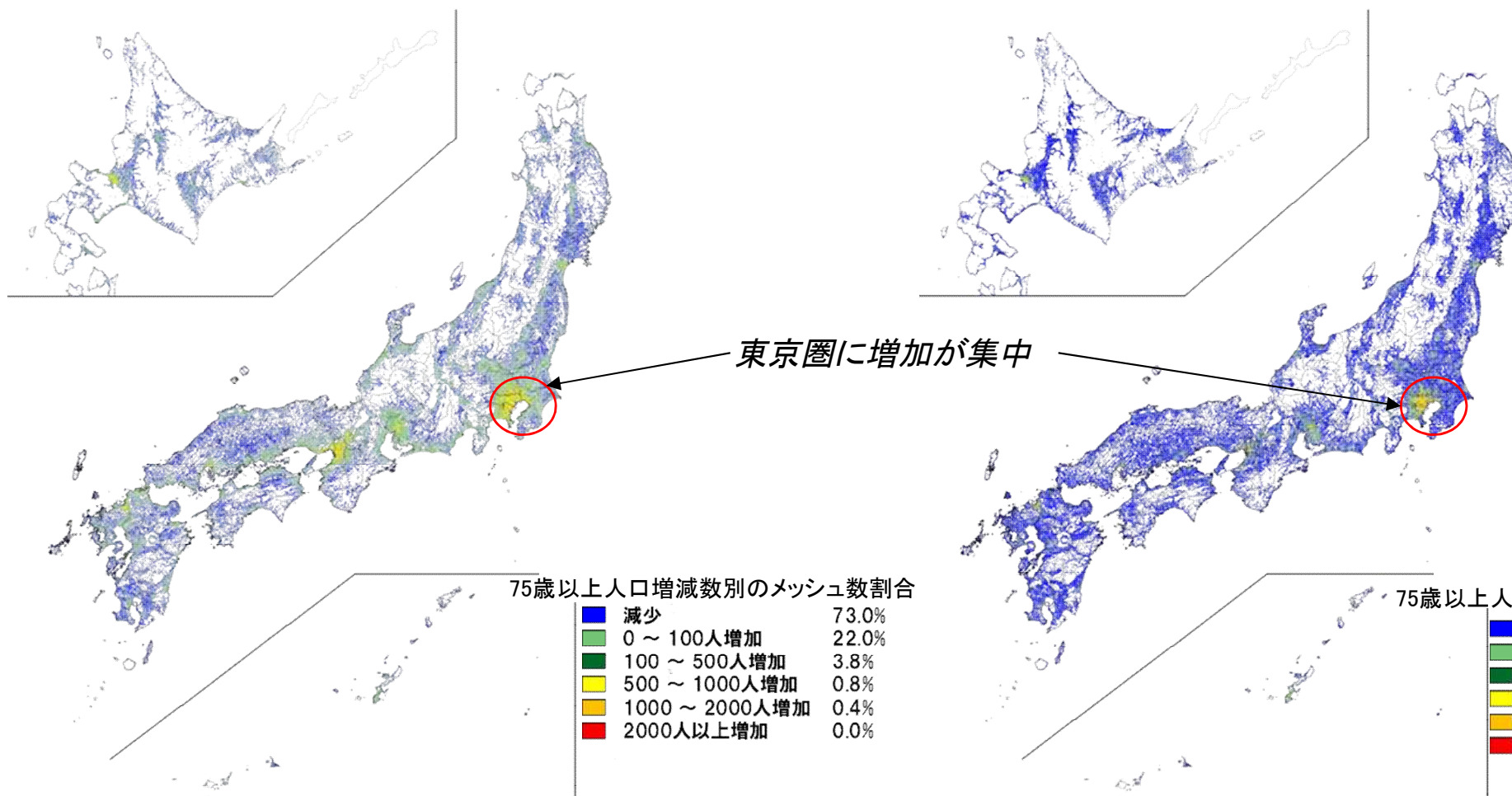
○将来の75歳以上人口の増減数について分析。

○2010年から2025年、2025年から2050年と年月を経るに連れ、75歳以上人口が減少するメッシュ(青色)が全国的に広がる。

他方、75歳以上人口が1,000人以上増加するメッシュ(橙色、赤色)は全国の1%前後であり、東京圏に集中していることが分かる。

2010年→2025年

2025年→2050年

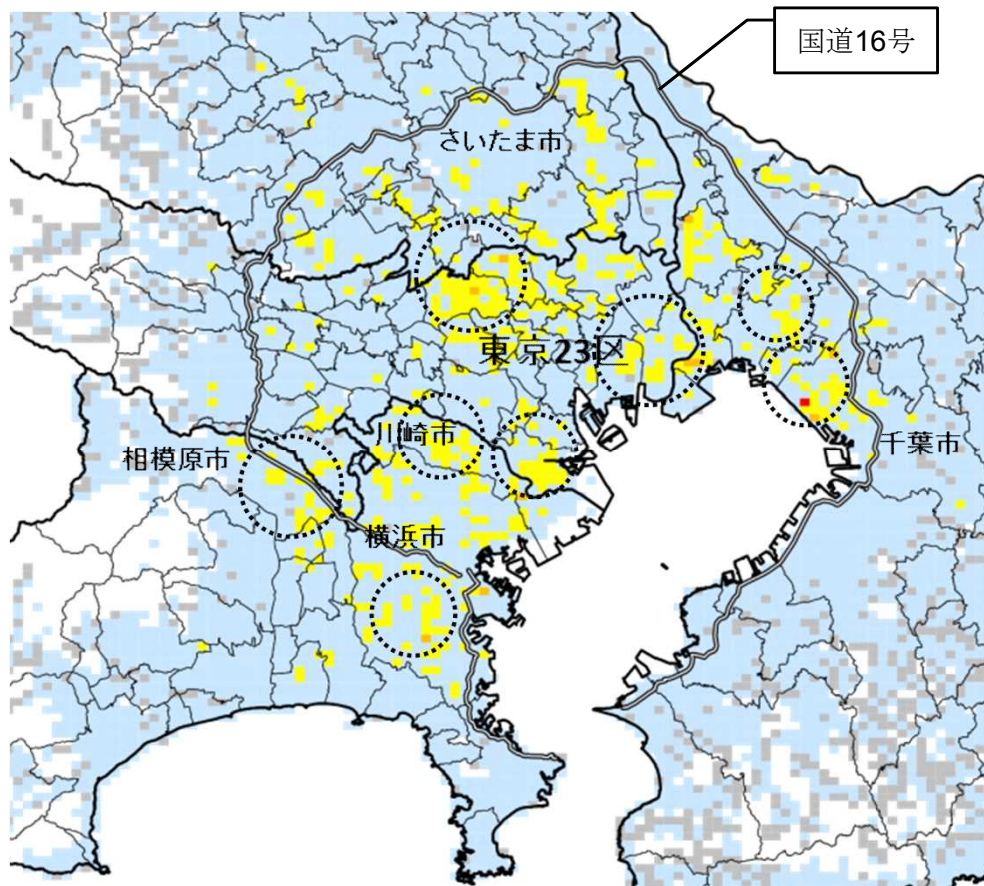


※ここでは、地図の縮尺の関係上、1km内に属する500mメッシュ別の推計値を合計し、1kmメッシュ別に色づけしている。

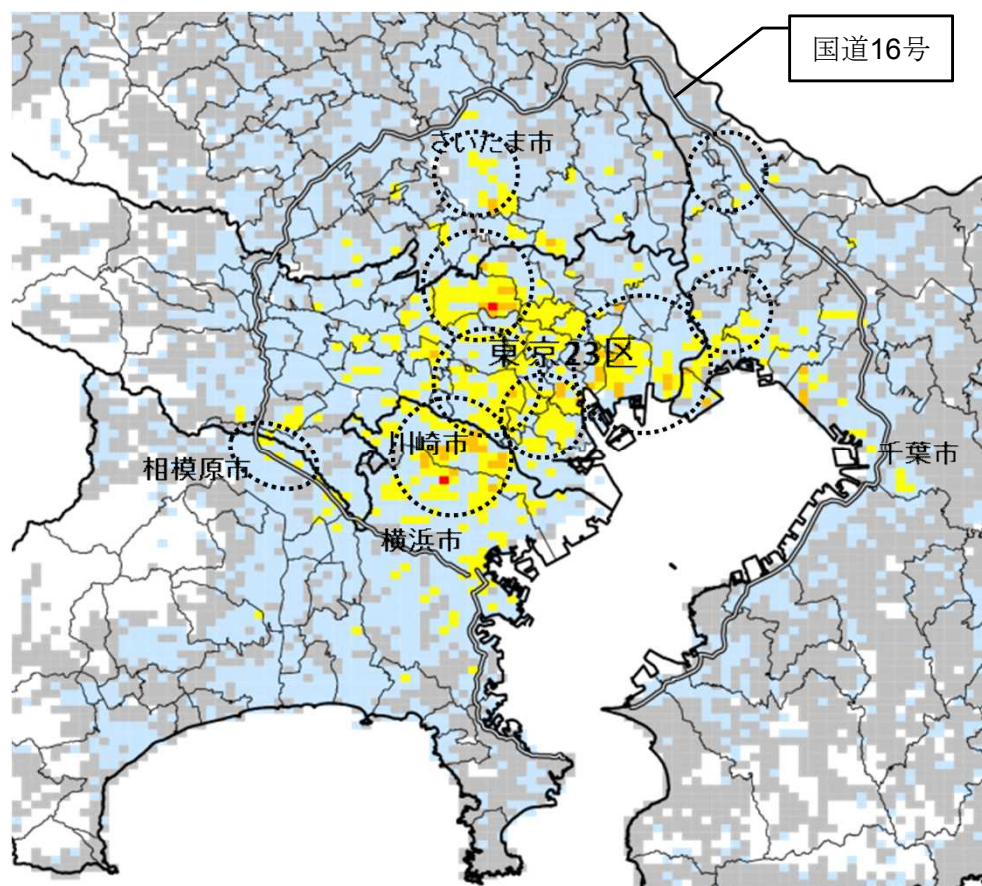
# メッシュ別将来人口推計結果③(高齢人口増減数(東京圏))

○東京圏の将来の75歳以上人口の増減数について分析。  
 ○2010年から2025年にかけては1,000人以上増加するメッシュが東京都区部の北西部のほか、郊外にも分布しているが、2025年から2050年にかけては東京都区部及びその周辺に集中していることがわかる。

2010年→2025年



2025年→2050年



※ここでは、地図の縮尺の関係上、1km内に属する500mメッシュ別の推計値を合計し、1kmメッシュ別に色づけしている。

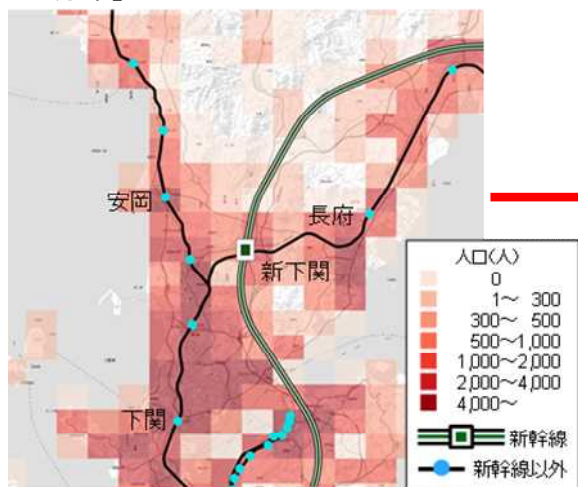
75歳以上人口増減数	
■ (Gray)	減少
■ (Light Blue)	0 ~ 1000人増加
■ (Yellow)	1000 ~ 2000人増加
■ (Orange)	2000 ~ 3000人増加
■ (Red)	3000人以上増加

# インフラ整備と人口増加の効果分析

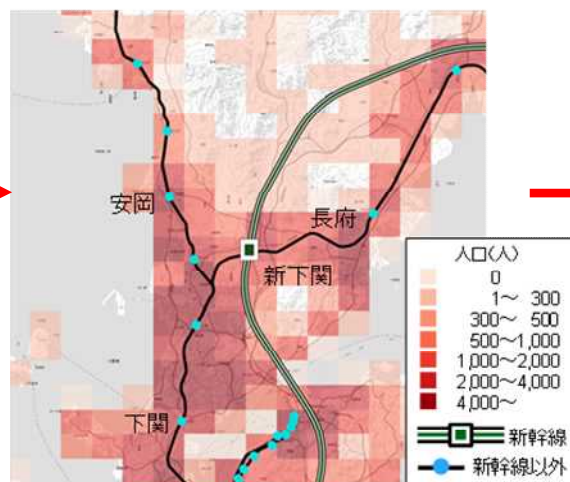
- 在来線の中心駅、中心市街地から離れた新幹線駅等を対象に、インフラ整備による人口増加(新駅設置)の効果メッシュ別人口分析。
- 必ずしも全ての駅で人口増加がみられたわけではないが、従来の在来線の中心駅、中心市街地から離れた地域に立地した新幹線駅等においても、例えば新下関駅など、新駅整備を契機として都市開発等を行っているところでは増加している駅もみられた。

## 山口県 新下関駅(1975年開業・山陽新幹線) ※ここでは、1kmメッシュ別に色づけしている。

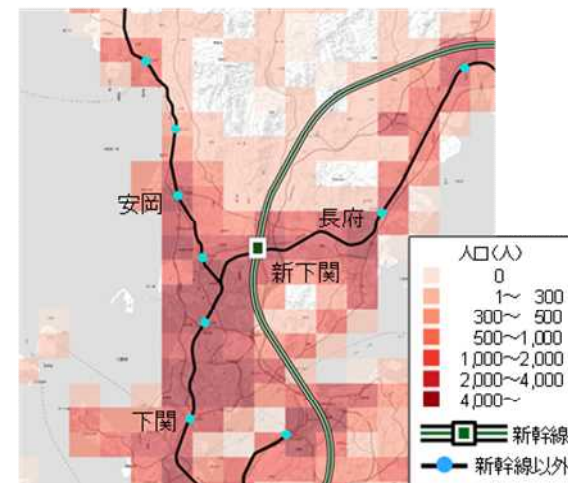
【人口分布】 1975年



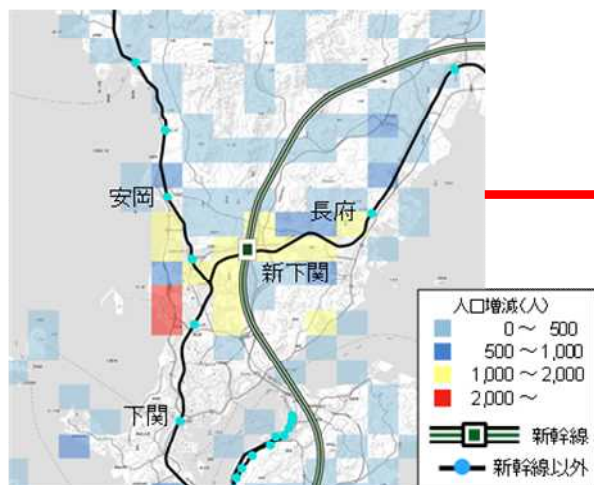
1985年



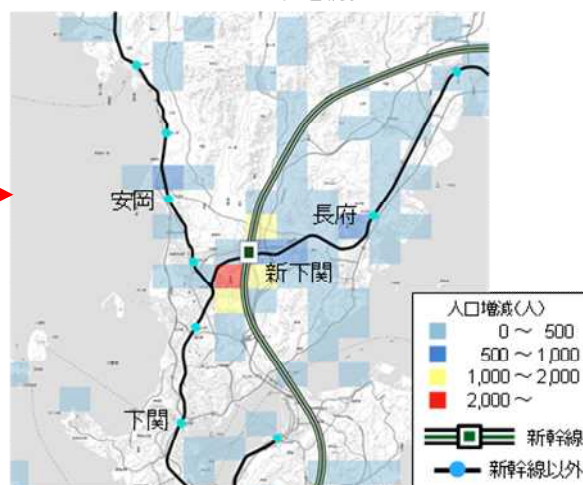
1995年



【人口増減数】 1975-1985年増減



1985-1995年増減



新幹線駅からの距離(km)	1975年人口(人)	1985年人口(人)	1995年人口(人) (1975年→1995年増減率)
0~1	4,324	6,839	9,856( <b>127.9%</b> )
1~2	8,074	15,614	21,956( <b>171.9%</b> )
2~3	23,239	30,216	29,850(28.4%)
3~4	32,915	39,119	37,374(13.5%)
4~5	58,408	53,800	49,751(-14.8%)

※旧下関市全体の1975年→1995年の人口増加率: -2.5%